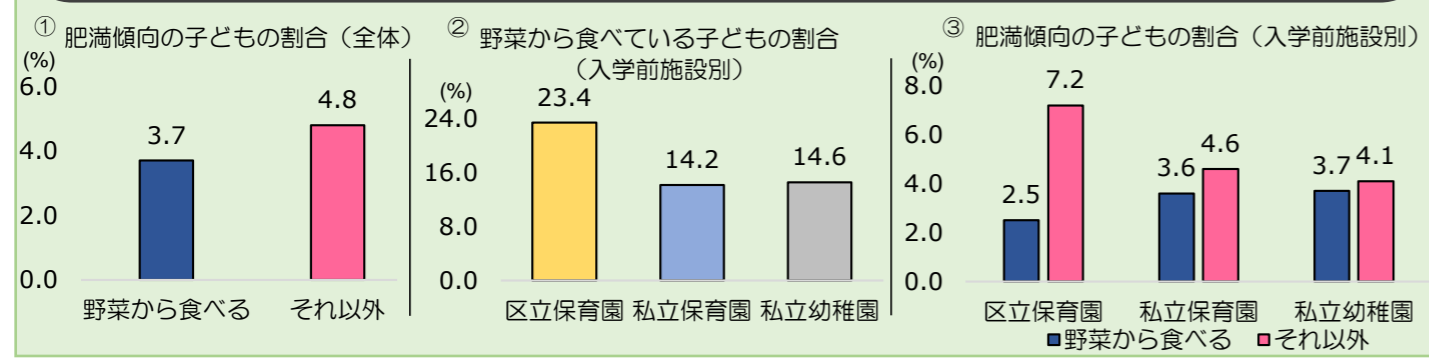


New!

食事を野菜から食べる習慣が肥満を予防します

肥満傾向の子どもの割合を、食事を野菜から食べているかどうかで比べてみると、野菜から食べている子どものほうが、肥満傾向の割合がやや低いことがわかりました(①)。平成27年度の調査から、肥満傾向の子どもの割合は区立保育園で特に高いことがわかっていました。この対策として、区では野菜から食べる習慣を身につける取組みを、区立保育園で強く推し進めてきました(②)。その結果、食事を野菜から食べている場合の肥満傾向は、私立保育園・幼稚園に比べて、区立保育園で特に低くなりました(③)。



本調査とこれまでの調査の結果から見えてきた傾向

＜平成27年度調査結果＞	＜平成28年度調査結果＞	＜平成29年度調査結果＞	＜総括＞
困ったときに保護者に相談できる相手の存在、また運動や読書習慣の習得が、子どもの健康に及ぼす生活困難の影響を軽減できる可能性が明らかになりました。	子どもが地域活動に積極的に参加して経験・体験を積み、ロールモデルとなる大人とかかわることで、逆境を乗り越える力を培える可能性が明らかになりました。	食事を野菜から食べるというちょっとした意識づけによって、肥満を予防できる可能性が明らかになりました。今後、さらなる普及・啓発に取り組めます。	全体として、健康や生活習慣の状況は平成27年度と同様の傾向でした。対策を実施して間もないため、引き続き取組みの実施および評価を行っていきます。

「未来へつなぐあだちプロジェクト」に調査結果を反映していきます

本調査から得られた結果を区の各所管で共有し、子どもに良い生活習慣が身につくよう支援するとともに、さらに野菜から食べる習慣の普及に向けて取り組んでまいります。また、保護者支援や、子どもが地域で経験や体験を積む機会を増やす施策等の充実についても、引き続き取組みを進めていきます。

- 窓口のご案内■ 子どものことや心身のこと等でお悩みの方は、下記の相談窓口をご利用ください。
- **子ども・子育てについて悩みがあるとき**
＜子ども支援センターげんき＞
03-3852-3535
 - **なんとなく心や体が不調なとき**
江北保健センター 03-3896-4004
千住保健センター 03-3888-4278
竹の塚保健センター 03-3855-5082
中央本町地域・保健総合支援課 03-3880-5352
東部保健センター 03-3606-4171
 - **生活や仕事に悩みがあるとき**
＜くらしと仕事の相談センター＞
03-3880-5705
 - **パートナーからの暴力や嫌がらせの悩み**
＜男女参画プラザ＞
女性相談(予約制) 03-3880-5223
 - **どんな相談でも**
＜よりそいホットライン＞
0120-279-338

■詳しい調査結果は、足立区公式ホームページをご覧ください。

発行：足立区・足立区教育委員会（平成30年3月）
編集：足立区衛生部こころとからだの健康づくり課
国立大学法人東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 国際健康推進医学分野
国立研究開発法人 国立成育医療研究センター研究所 社会医学研究部
問合せ：03-3880-5433（足立区衛生部こころとからだの健康づくり課）

※平成29年度報告書本編は、平成30年4月下旬以降に掲載予定

第3回 子どもの健康・生活実態調査 平成29年度 報告書【概要版】

足立区と足立区教育委員会は、全ての子どもたちが生まれ育った環境に左右されることなく、自分の将来に夢や希望が持てる地域社会の実現を目指しています。そのためにはまず、できる限り正確に子どもの健康と生活の実態を把握することが必要です。

この度、平成29年度に実施しました第3回「子どもの健康・生活実態調査」の概要がまとまりました。調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

今後は本調査結果を踏まえて、子どもたちの未来につながる施策を再構築してまいります。今後とも足立区政ならびに教育活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

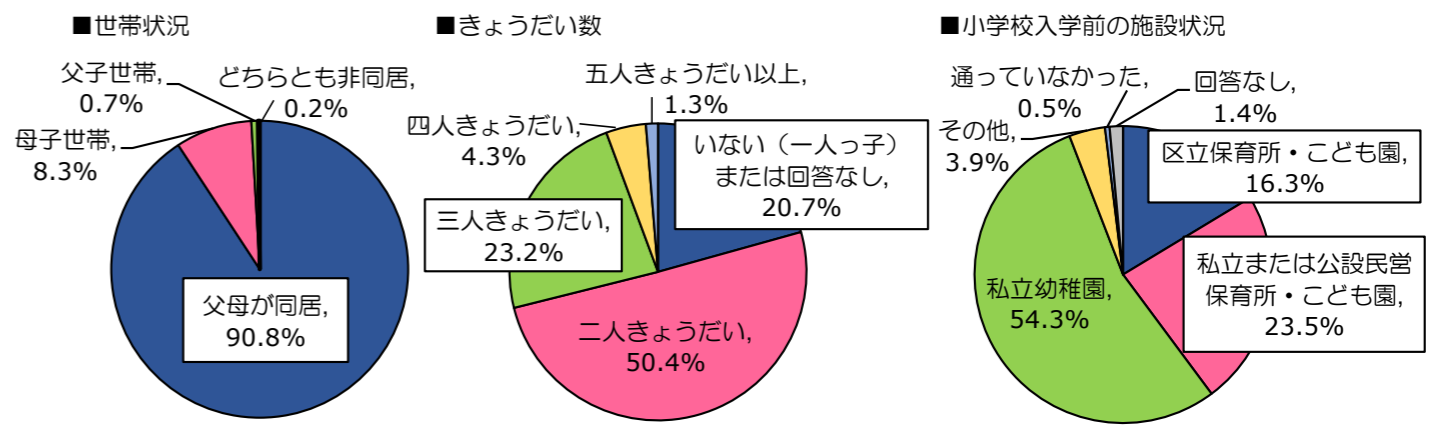
足立区長 近藤 やよい
足立区教育委員会教育長 定野 司

調査の概要

- ◇ 調査対象：区立の小学校に在籍する1年生全員 5,160名（69校）
- ◇ 調査時期：平成29年10月
- ◇ 実施方法：無記名アンケート方式により、区が学校を通じて質問票や回答票の配付・回収を行い、東京医科歯科大学と国立成育医療研究センター研究所が結果の集計・分析を行いました。
- ◇ 回答状況：有効回答4,208名（有効回答率81.6%） ※回答者の約90%は子どもの母親

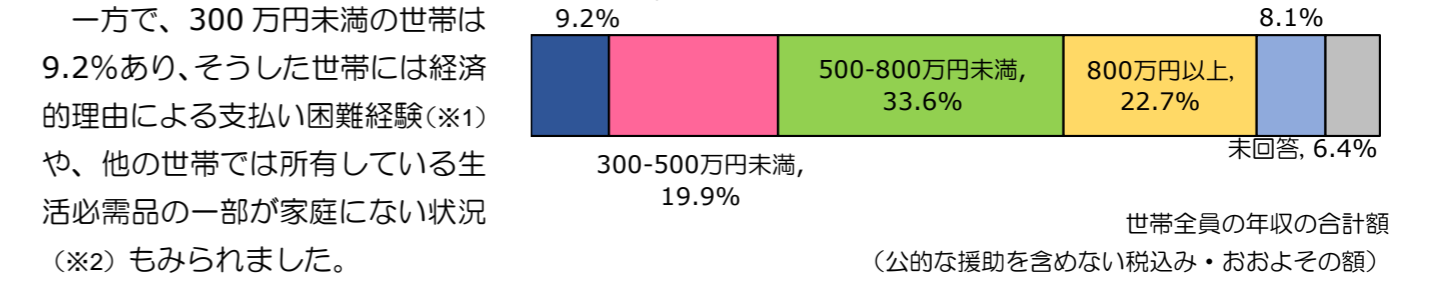
世帯の構成等について

父母が同居している世帯は全体の約90%で、一人っ子の割合は約20%でした。入学前に通っていた施設は、私立幼稚園が全体の約半分で、区立保育園・こども園は約6分の1でした。



世帯の経済状況について

世帯の経済状況は、税込み収入（年収）の国の中央値である約430万円よりも約60%が高い状況にありました。



※1 過去1年間に経済的理由でライフライン等の支払いができなかったこと
※2 子どもの生活において必要と思われる物品や5万円以上の貯金がない等

調査項目は中面をご覧ください

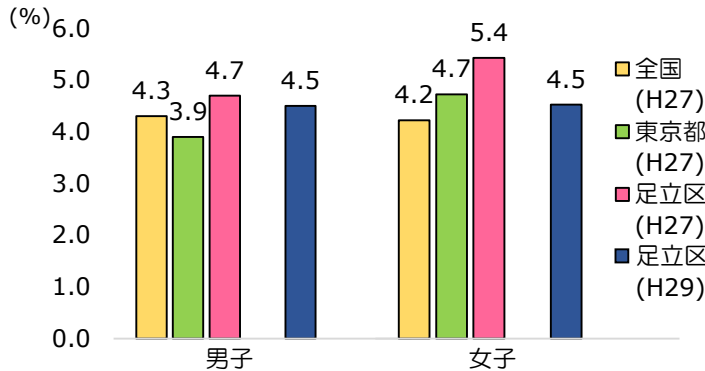
子どもの健康・生活の状況 (調査項目の一部抜粋)

足立区立小学校に在籍する小学1年生の健康・生活の実態は以下のとおりです。平成27年度の結果と比較を行っています。ここでは、代表的な項目についてのみ記載しています。さらに詳しいデータは、足立区公式ホームページをご覧ください(平成30年4月下旬以降に掲載予定)。

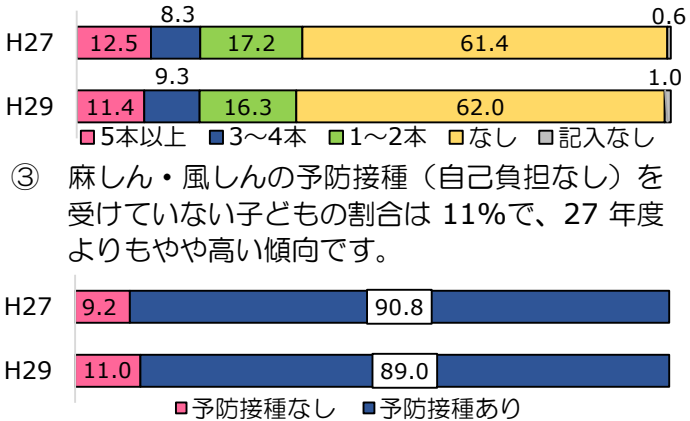
※各グラフの数字は、パーセンテージです。

健康・予防接種について - 肥満、むし歯、予防接種 -

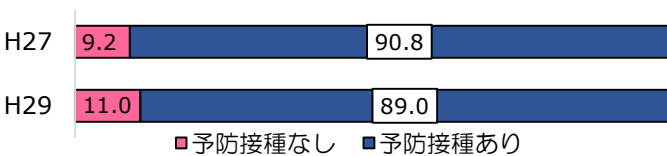
① 29年度の肥満傾向の子どもの割合は、27年度に比べて低くなっていったものの、依然として都や全国平均よりもやや高い傾向です。



② むし歯が1本でもある子どもの割合は約37%で、27年度よりも1ポイント改善されました。

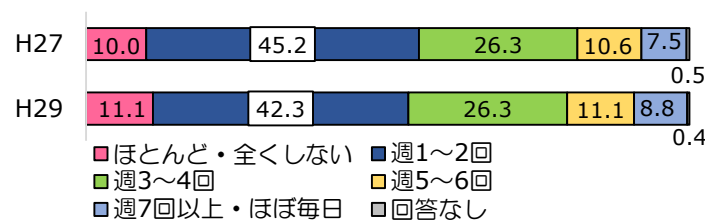


③ 麻しん・風しんの予防接種(自己負担なし)を受けていない子どもの割合は11%で、27年度よりもやや高い傾向です。

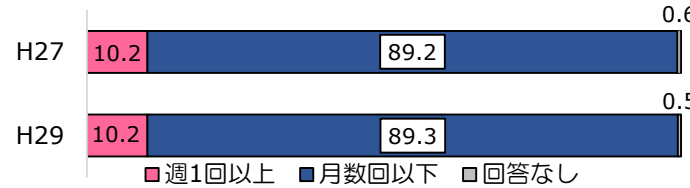


生活習慣について - 運動、テレビ、留守番、読書 -

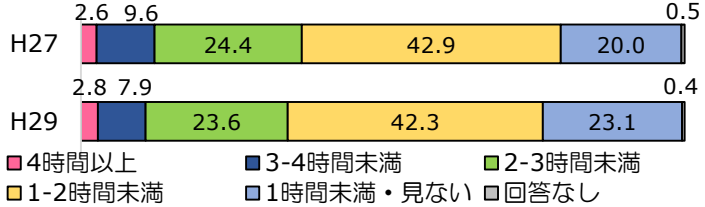
④ 一週間でほとんど・全く運動しない子どもは、約11%で27年度よりもやや高い傾向です。(学校での運動を除く)



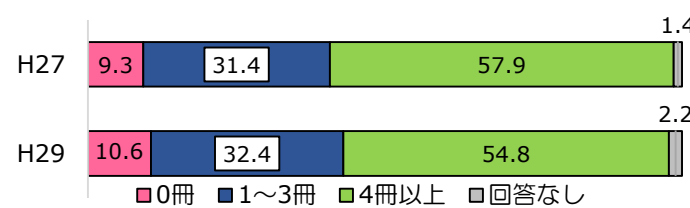
⑥ 平日の放課後、子どもだけで週1回以上留守番をしている世帯は、27年度と同じく10.2%でした。



⑤ テレビ・動画を1日3時間以上見ている子どもは約11%で、27年度よりもやや低い傾向です。

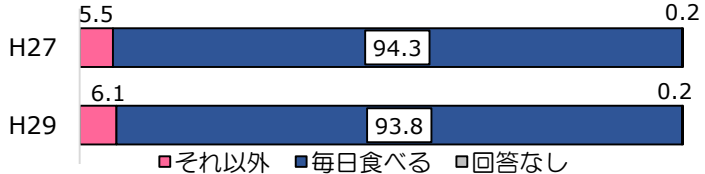


⑦ 最近1か月で1冊も本を読んでいない子どもは約11%で、27年度よりもやや高い傾向でした。

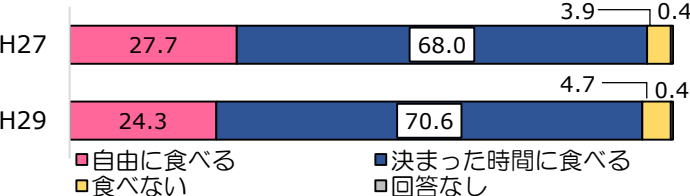


食生活について - 朝食、夕食、おやつ、食べる順番 -

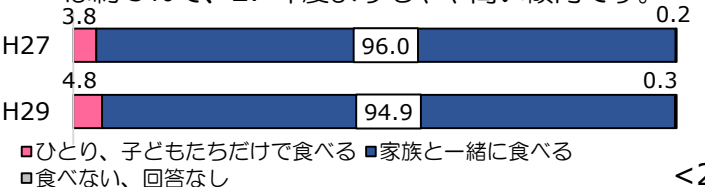
⑧ 朝食を毎日食べる習慣のない子どもは、27年度とほぼ変わらない約6%でした。



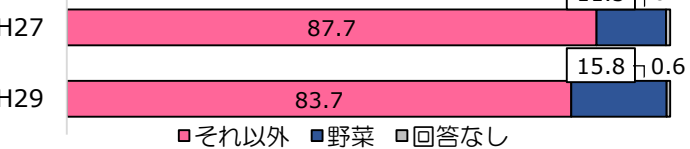
⑩ 時間を決めておやつを食べていない子どもは約24%で、27年度よりも低い傾向です。



⑨ 夕食をひとり、または子どもたちだけで食べる世帯は約5%で、27年度よりもやや高い傾向です。



⑪ 食事を野菜から食べている子どもは約16%で、27年度より約4ポイント改善されました。



<2>

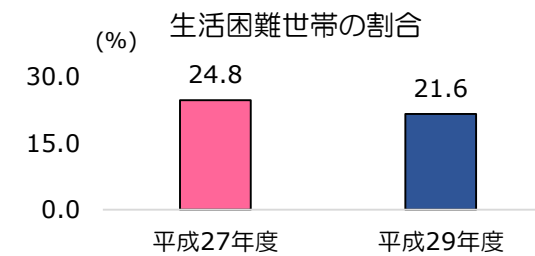
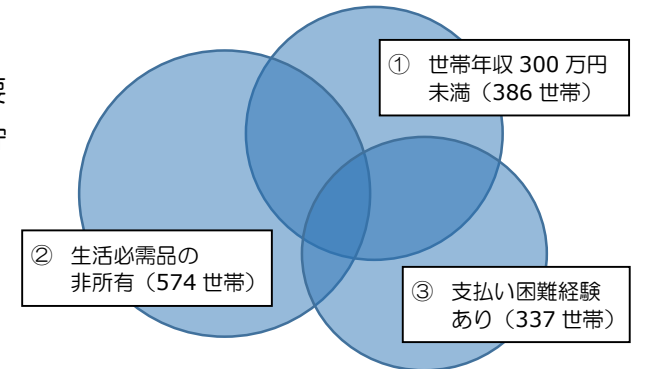
子どもの健康・生活と生活困難の関連

本調査では、子どもの貧困状態を経済的な困窮だけでなく、子どもがおかれた家庭環境全体で把握すべきであると考え、次のいずれか一つでも該当する場合を「生活困難」世帯と定義し、子どもの健康・生活に生活困難がどの程度関連があるかを調べました。

※各グラフの数字は、パーセンテージです。

生活困難とは

- ① 世帯年収300万円未満の世帯
- ② 生活必需品の非所有世帯(子どもの生活において必要と思われる物品や急な出費に備えた5万円以上の貯金がないなど)
- ③ 水道・ガスなどのライフラインの支払い困難経験世帯



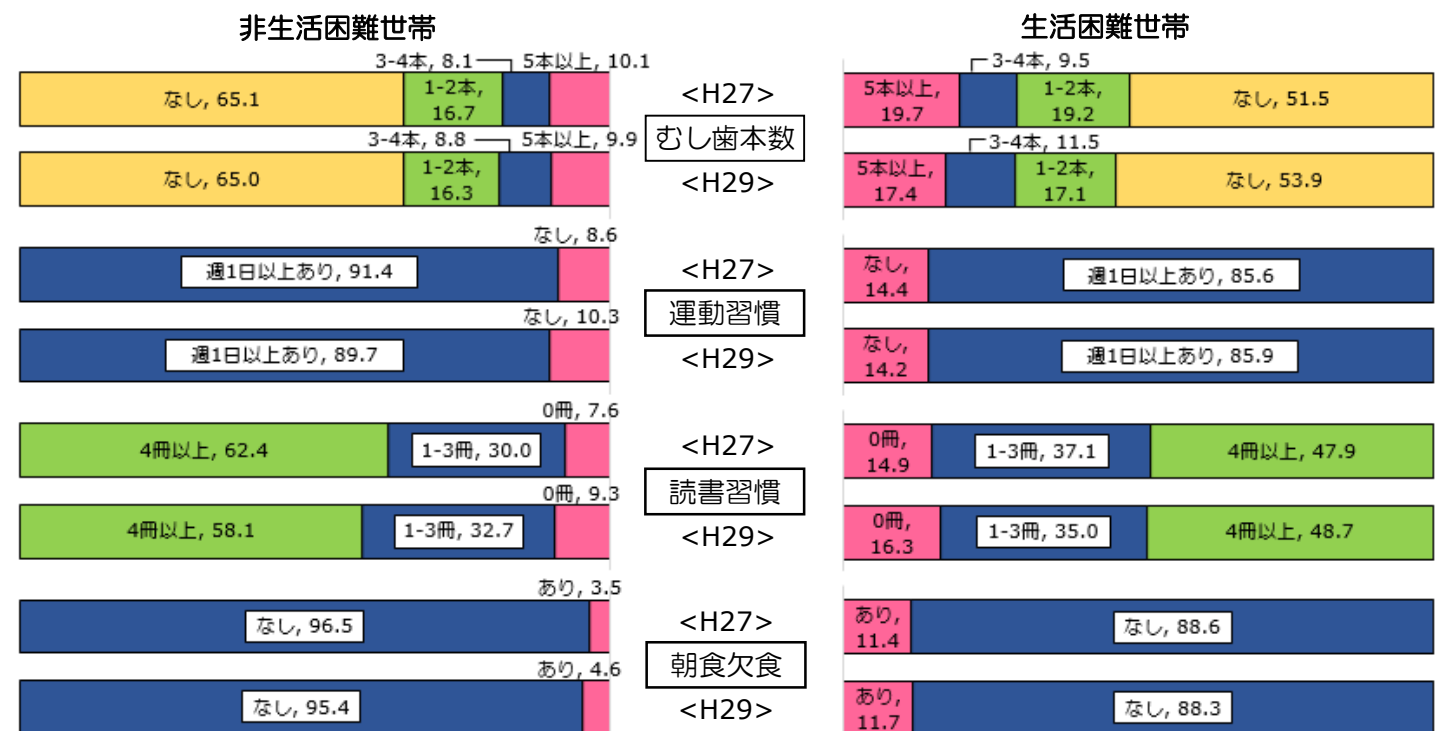
平成29年度の「生活困難」世帯該当件数は、911世帯(21.6%)です。平成27年度の24.8%から、3.2ポイント減少しました。

非生活困難世帯と生活困難世帯の比較

生活困難が子どもの健康や生活にどの程度関連があるかを調べるために、むし歯や朝食の摂取状況等について、非生活困難世帯と生活困難世帯を比較しました。

生活困難世帯の健康・生活状況には、非生活困難世帯と比較して依然として課題がみられます。

平成27年度と平成29年度を比べると、非生活困難世帯、生活困難世帯どちらも、運動習慣・読書習慣・朝食欠食といった生活状況は、ほとんど変化がないか、良い生活習慣の割合がやや低くなりました。一方、生活困難世帯のむし歯を5本以上有する子どもの割合は、平成27年度に比べて2.3ポイント減少しました。



<3>